

報道関係各位

株式会社トップカルチャー

蔦屋書店は「楽・学・遊・働」基地として生まれ変わります。

－8月に北信越初のコワーキングスペース「SHARE LOUNGE（シェアラウンジ）」が誕生－

新潟・長野を中心に蔦屋書店を展開する株式会社トップカルチャー（代表取締役社長 COO・清水大輔、新潟市）は、蔦屋書店を順次「楽・学・遊・働」の拠点空間としてリニューアルしてまいります。

北信越で初となるコワーキングスペース「SHARE LOUNGE（シェアラウンジ）」を、8月（予定）に「蔦屋書店 新潟万代」にオープンいたします。9月以降も順次オープンし、2022年10月期までに計10店舗でのOPENを目指すほか、地域と連携した食品や雑貨の販売を強化し、地域産業振興をバックアップいたします。



出所：「SHARE LOUNGE」二子玉川 蔦屋家電

コロナ禍によるニューノーマル（新しい生活様式）は、巣ごもりやリモートワークだけでなく、家族との時間の増加、子どもたちの学びのスタイルや地域産業の業況の大きな変化にまで及んでいます。もとより、蔦屋書店は「文化を通したライフスタイルの提案」を目指しており、人々のライフスタイルが大きく変化した今、蔦屋書店の在り方も刷新すべきと考え、書店は「知の提供の場」だけでなく「人々の営みの拠り所」でなくてはならない、という新方針のもと、新たな挑戦をしております。

まず、当社の旗艦店である「蔦屋書店 新潟万代」に「SHARE LOUNGE」をオープンします。SHARE LOUNGEは、2019年にTSUTAYAの新業態として東京「渋谷スクランブルスクエア」に誕生したコワーキングスペースです。

本に囲まれた空間で、創造のための刺激（インスパイア）を受けアイデアが湧く、自由に自分らしい働き方ができる場所として誕生しました。快適に仕事ができる設備やアメニティを揃え、フリードリンク&フリースナックサービスも好評を博しています。全国でリモートワーク実施率が30%を超えた現在、自宅よりも、またオフィスよりも快適に仕事ができる場の提供をしております。

加えて、蔦屋書店がある各地域のオリジナリティ豊かな商品や特産品を期間限定のフェアやポップアップショップで販売します。これにより、地域産業を応援するとともに、“ここでしか買えない”商品を充実させ、蔦屋書店のローカライズ（独自性）を進めてまいります。



【蔦屋書店おにぎりフェア】



【ご当地サイダーフェア】

TSUTAYA のフランチャイズ本部である、カルチャー・コンビニエンス・クラブ株式会社（代表取締役社長 兼 CEO 増田宗昭 以下、CCC）では、「TSUTAYA のリモデル」を掲げ、SHARE LOUNGE の導入や「地域」重視の方針を掲げています。

トップカルチャーは、TSUTAYA チェーン最大のフランチャイジーとして、CCC との連携を強化し、「新しい蔦屋書店／TSUTAYA」の創出にチャレンジするとともに、地域における書店の存在意義を見つめなおし、「楽・学・遊・働」基地としての書店を、展開してまいります。